

立教開宗七五〇年記念

「大日蓮展」特集号

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話 (03) 3751-7181

平成15年2月16日
第27号

遂に開幕「大日蓮展」 内覧会を開催。

平成15年1月15日〜2月23日・東京国立博物館



大日蓮展円成祈願の法要 (1月14日)

平成十五年一月十五日、いよいよ立教開宗七五〇年記念「大日蓮展」が開幕した。
これに先立ち前日の十四日午前十時からは、千葉県深原寺から出展された一塔兩尊四土像の前で日蓮聖人門下連合会渡邊清明理事長導師のもと、小松浄慎(日蓮宗)、佐藤義賢(法華宗本門流)、中村通義(顕本法華宗)、土屋善敬(法華宗陣門流)、齋藤隆彦(法華宗真門流)、山下通雄(本門法華宗)、大橋邦正(国柱会)の各常任理事出仕にて大日蓮展円成祈願の法味言上が奉修された。
午前十一時からは、各種報道機関に向け内覧会が行われ、三十五社五十五名の報道関係者が訪れ、本展に対する関心の高さがうかがわれた。午後二時からは平成館一階ロビーにて約八〇〇名の来賓と共に開会式が

執り行われ、主催者挨拶の中で渡邊理事長が「立教開宗七五〇年記念事業のしめくくりとしてこの大日蓮展が開催されます。この機会に多くの方々に観覧していただきたいと思えます。」と述べた。引き続きテープカットを行い内覧会へと進んだ。
第一室に入るとすぐ正面には、本展ポスターの祖師像、鎌倉妙本寺の日蓮聖人坐像が安置され、その凛としたお姿が人々を惹きつけていた。また第四室には長谷川等伯が描いた仏涅槃図の巨幅が展示され、森喜朗前首相らも所蔵寺院である京都本法寺大塚泰詮貫首の説明に熱心に耳を傾け、壮大なスケールの描写に多く

の人々が目をみはっていた。明けて会期初日の十五日は、前日の暖かい日和とはうってかわり寒い日であったが、開催前から何名かの入場者が列をつくるなど一般の方々にとってもこの「大日蓮展」は高い関心がもたれていると言えよう。
展覧会の中には祖師像をはじめとした仏像の前で手を合わせてから拝観される人も多く、この展覧会が単なる美術展ではなく、まさに日蓮聖人の御生涯とその信仰を一所に再現した一つの道場であるとの感があった。会期限定の道場に、多くの方々

が参集されることを期待するものがある。
最後の部分を開かれることに注意してください。両書の最後の部分は、これまでほとんど公開されたことはなく、実際に拝読した人はほんとうに数少ないはずだ。
京都から、本法寺の重要文化財「仏涅槃図」が、はじめて寺内を離れてここに掲げられます。一代の画聖とたたえられた長谷川等伯が描いた、雄大な構図による特大の涅槃図で、その代表作として世に知られています。また、長谷川等伯がまだ信春と号して、北陸で活躍していた時代に描いた、富山の妙伝寺蔵「鬼子母神十羅刹女像」が紹介されます。
これまで催された「日蓮聖人展」では、ご真蹟の御曼荼羅本尊や著書・書状などを中心に、全体が構成されてきました。しかし、このたびの「大日蓮展」では、ご真蹟を重視しながらも、彫刻・絵画など信仰上の造形に比重が置かれ、従来にない多彩で豊かな内容の展覧会となります。外にも特に注目すべき点は多いのですが、ここで全体の構成と概観を述べましょう。

「日蓮聖人展」への招待

中尾堯文

一、法華信仰の世界

日蓮聖人開宗七五〇年記念の「大日蓮展」が、東京国立博物館を会場に、一月十五日から二月二十三日までの四十日のあいだ開催され、一連の記念事業の掉尾を飾ります。日蓮聖人門下の諸宗寺院に伝来する、一五〇点を優に越える多くの重宝が、博物館の新館たる平成館の一室に集うのです。
建長五年(一二五三)四月二十八日、日蓮聖人が清澄山で立教開宗されてから、七五〇年になります。この長い歴史のなかで営まれた、法華経信仰と文化の営みの道筋を、絵画や彫刻などの造形によってみることもできる、とても貴重な機会といえます。これにともなつて、「大日蓮展」の豪華な図録を製作中で、開会と同時に出版される本書をひとときながら、法華信仰の世界に分け入っていただきたいものです。

性のある事柄があり、特に注目を浴びています。すでにポスターでご承知のとおり、鎌倉の本山妙本寺に安置される日蓮聖人木像が遷座されることです。古くから聖人のご在世中に彫刻された「寿象の祖師」といわれ、恐らく事実を伝えていると見てよいと、専門家によって判断されました。同寺に伝来し、このたび宗務院の手で見事に修復された、「臨滅度時の御本尊」の立派な姿を拝することも出来ます。
中山法華経寺からは、国宝の「観心本尊抄」と「立正安国論」の両書が、そろって展覧されることは初めてのことで、日蓮聖人が、身命に及ぶ龍ノ口法難を蒙られた前と後のご筆蹟を、十分に比較し味読されたいものです。ただし、両書とも会期の前半は最初の部分を、後半には

この度の「大日蓮展」の構成は、「日蓮聖人とその門弟」「法華経の美術」「外護者と信者」「法華文化の精神」の四つの主題からなっています。場内での陳列も、図録の叙述も、この区分にしたがっています。
I、「日蓮聖人とその門弟」では、日頃から宗祖と仰ぐ日蓮聖人のお姿を、ご真蹟と木像と絵像などによって、まず物語ります。ここに写し出された日蓮聖人のお姿は、常に聖人の警咳に接していた弟子や、その教えを日ごろ拝聴していた信者たちが、十分に納得のいくものであったはず。門弟は、後事を託された六老僧に限らず、日像・日親上人まで範

三、四つの主題

二、至宝の中の至宝

「大日蓮展」では、いくつかの話題

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切に願います。本誌に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会

從地涌出

◆本年一月十五日より立教開宗七五〇年記念「大日蓮展」が開催される。この開催にご尽力下さった本紙初代編集長の富川孝恭上人が、昨年十月に遷化された。ある酒席でこの「大日蓮展」について熱く語っていた師の姿が思い起こされる。この催しが盛會に無事終了することが、富川上人への最高のご供養になると思う。

◆上人本葬儀のお返しに「日蓮聖人」といかなる人か」という本を頂戴した。これを読み、門下連合が組織された目的が「宗門の統合」「宗門の合同」であることを恥ずかしながら初めて知った次第である。

◆同じ法華経とお題目を唱えながら宗派が分裂していることは、僧侶から見ればそれぞれに言い分があるが、俗人には「法論はどちらが負けても釈迦の恥」の如く理解し難いのではないだろうか。例えば、同じ地涌の菩薩でありながら「私は上行菩薩派」「私は無辺行菩薩派」と片意地を張っているようなものであり、そのような状態に対して、世尊は「善哉善哉、善男子、汝等よく如来において随喜の心を発せり」とは決して仰らないであろう。世界に目を転じるとキリスト教・イスラム教が二大宗教に成りつつある現代において、仏教徒としてつまらないセクト主義に固執することなく、如何にあるべきかを考えていかなくてはならないと思う。

◆日本漢字能力検定協会が、六万通の応募をもとに選んだ平成十四年の「今年の漢字」は「掃」であった。拉致被害者五人が北朝鮮から二十四年ぶりに帰国した「掃」であることは言うまでもないが、門下連合もこの「大日蓮展」を契機に「皆婦妙法」の「掃」を念頭におき、世界に目を向けていくべきであろう。

◆平成十五年は羊年である。「羊」の字は「善」や「美」など良きものを表す言葉に多くついているそうである。今年こそ世界にとって美しく善い年になるよう、そして門下連合各派が一匹狼にならず、羊のように一群をなすことを念願する。

(金子和正)



内覧会で挨拶する渡邊理事長。右に森前首相。

開をあげました。

II、「法華経の美術」では、法華経信仰の足跡をたどる、仏像彫刻や絵画を展示しています。これは多岐にわたる、まず日蓮聖人のご在世以前の平安時代から、同時代の鎌倉時代前期にかけて制作され、天台宗寺院などに奉安されて、後世に日蓮聖人門下の寺院に伝わった仏像・仏画・経典等があります。

日蓮聖人門下諸宗の本尊は「十界勸請大曼荼羅本尊」と呼ばれ、日蓮宗宗宝の「臨滅度時本尊」にはこれを墨書で表現されています。この構図に則って彫刻した木像や描いた画像の、仏菩薩・天部の諸尊の姿が次に並びます。法華経の諸尊の多様さが窺われるはず。

III、「外護者と信者」信者と不信者とを問わず、宗門に対して有形無形の援助を行うものを、「外護者」といいます。一応「信者」と区別して考えます。この部門は、資料的に一貫した展示が困難で、日蓮聖人門下の諸宗寺院に対する大名の書状や調度品、古い過去帳、寺院の文書などを幅広く展示しています。

IV、「法華文化の精粹」は、日蓮

の法華信仰を受け継いで、見事な文化的創造の活動を見せた、十七世紀、桃山文化の時代の営みを物語ります。天下統一にふさわしく、壮大な障壁画をはじめ美しい絵画や工芸品などが、法華信仰を内に秘めた作家たちの手によって、数多く創出されます。これらの豪華絢爛たる作品を、京都を舞台に花開いた法華文化を背景に、動的に味わっていただきたいものです。

以上のような概観のもとに、実際の作品を紹介しながら、注目すべき点をご紹介しますこととしましょう。ここに、躍動する法華信仰の伝統を、はつきりと見いだすことが出来ます。

日蓮聖人のイメージを物語るのは、聖人のご在世中かご入滅間もない頃の肖像や絵巻物です。彫刻としては、鎌倉妙本寺「寿像の祖師」と本満寺の木像が安置されます。鎌倉で伝道された壮年時代の聖人を「寿像の祖師」にしのび、池上本門寺に詣でて老境の聖人像を拝するもの、一つのコースとしてえられるでしょう。

絵画では、重要文化財の浄光院「絹本着色日蓮聖人像(水鏡の御影)」と妙法華寺「絹本着色日蓮上人像」が掲げられます。ご一代記を描いた「日蓮聖人註画像」の写本は、京都本願寺本と千葉鏡忍寺本が展示され、活写された聖人の姿がうかがわれます。弟子や信者のイメージにある日蓮聖人像は、激しくも端正な姿勢を崩されず、聖者としての姿勢であったはず。

京都にはじめて日蓮聖人の教えを広めた日蓮上人、生命をかけて伝道し本法寺を開いた日親上人の画像も、宗門史の上で注目されます。この主題のもとには、法華経の伝道に生命をかける、中世の僧侶の群像が登場しています。

②「法華経の美術」には、恐らく公家の家や天台宗の寺院に伝わっていて、後に日蓮聖人門下の諸寺院に移ったと見られる、優れた法華経の美術を展示します。京都の本法寺・本満寺に伝来する「妙法蓮華経」の装飾を施した写経、立本寺の「紺紙金銀泥法華経曼荼羅図」は、釈尊の法華経説法の姿を如実に示す、平安時代後期から鎌倉時代を代表する、優れた装飾経であり仏教絵画です。

日蓮聖人は、視覚的に展開される法華経の造形を背景に、墨書の文字による大曼荼羅本尊をあらわされたのです。二〇幅あまりが現存する内、日蓮宗の宗宝に指定されている妙本寺「臨滅度時の本尊」が、ここに掲げられています。「南無妙法蓮華経」のお題目を中央に高く掲げる大曼荼羅本尊に、数多く勸請されている仏菩薩・諸天・人師を、それぞれ絵で書き表したのが「法華経絵曼荼羅」で、三島妙法華寺・京都法華寺などに伝来するものが掲げられます。

③「外護者と信者」では、大外護者として有名な、加藤清正が用いた調度品、お題目を織り込んだ着衣などを展示します。渡辺浄慶夫妻が並んだ写真のような絵像、大名とその妻の写経と書状など、じつに多様です。千葉本土寺の「本土寺過去帳」や、京都頂妙寺で近年発見された「京都十六山合文書」は、寺院の多方面にわたる運営の実態を物語る史料として注目されます。

④「法華文化の精粹」では、近世の美術をとりあげます。熱烈な法華信者で、洛北の鷹峰で創作活動を展開し、時代を越えた芸術家としての令名をほしいままにした京都の本阿弥光悦がいます。作品としては、嵯峨本・時経・書蹟などが出品されています。立正安国論の筆写本には、力強い筆致に信仰の表出が窺えるのです。

北陸から上洛し、本法寺で起居して画業に励んで大成した、長谷川等伯の作品は、まことにすばらしいものです。仏涅槃図の大幅をはじめ、等伯画説と題する画論は、その高い画境を物語っています。信春といっていた北陸時代の作品、石川県妙成寺の「日蓮上人像」や富山県大法寺の「涅槃図」も注目されます。

桃山時代の京都は、華やかな庶民文化にあふれていました。公家も武家も、庶民もともに都の四季を明るく味わったのです。その雰囲気や絵画にあらわしたのが、新潟県根本寺と妙法寺の「洛中洛外屏風」で、金色に輝く画面の中に、日蓮諸宗の寺院や庶民の生活を探すのも、楽しみでしょう。

⑤「大日蓮展」は、厳寒の一月十五日から始まって、春先の二月二十三日まで、東京都上野の国立博物館で催されます。ただし、月曜日は休館日となっていますので、閉館です。開館は午前九時半から午後五時までですが、午後四時半には入場が締め切られます。

会場では、「大日蓮展」の詳しい図録が販売されているので、あらかじめこれを購入の上で入場されると、より充実した見学が出来るはずで、休憩室が館内一階と二階にあり、自由に利用出来ます。

◎個人で入場される場合には、混雑が予想されるので、なるべく早い時期に、しかも午前中に来館されるのがよいでしょう。「観心本尊抄」と「立正安国論」が、前期と後期に展示替えがありますので、前後二回入場されると理想的です。所要時間は、駆け足でまわって六〇分位ですから、やはり二時間から三時間はみておきたいものです。

◎団体の場合は、展示会の内容や意義について、参加する方々にあらかじめよく解説したうえで入場してください。会場の内部は混雑することもあり、慣れていないと説明をすることは難しいものです。土曜・日曜と「友引」の日には、特に大勢の方が入場される見通しです。中山法華経寺の行堂に午前中に参詣し、昼食のあとに博物館の「大日蓮展」を見学するセットにして、団体で行動されるプランがあるようです。見学の所要時間は、約二時間程度が適当でしょう。

◎会期中に、数回ほどの催し物が計画されています。設備のよい大講堂で開催されますので、ぜひとも参加してください。また、日蓮聖人に関する書籍や写真も、館内で販売されています。

「大日蓮展」は、日蓮聖人門下諸宗の協力によって催す、大規模の展示会です。この機会を、大勢の檀信徒の方々とともに来会され、日蓮聖人と法華経信仰について語る、絶好の契機とされることを熱望する次第です。

五、ガイドのしおり

日蓮聖人立教開宗七五〇年記念「大日蓮展」は、厳寒の一月十五日から始まって、春先の二月二十三日まで、東京都上野の国立博物館で催されます。ただし、月曜日は休館日となっていますので、閉館です。開館は午前九時半から午後五時までですが、午後四時半には入場が締め切られます。

会場では、「大日蓮展」の詳しい図録が販売されているので、あらかじめこれを購入の上で入場されると、より充実した見学が出来るはずで、休憩室が館内一階と二階にあり、自由に利用出来ます。

◎個人で入場される場合には、混雑が予想されるので、なるべく早い時期に、しかも午前中に来館されるのがよいでしょう。「観心本尊抄」と「立正安国論」が、前期と後期に展示替えがありますので、前後二回入場されると理想的です。所要時間は、駆け足でまわって六〇分位ですから、やはり二時間から三時間はみておきたいものです。

◎団体の場合は、展示会の内容や意義について、参加する方々にあらかじめよく解説したうえで入場してください。会場の内部は混雑することもあり、慣れていないと説明をすることは難しいものです。土曜・日曜と「友引」の日には、特に大勢の方が入場される見通しです。中山法華経寺の行堂に午前中に参詣し、昼食のあとに博物館の「大日蓮展」を見学するセットにして、団体で行動されるプランがあるようです。見学の所要時間は、約二時間程度が適当でしょう。

◎会期中に、数回ほどの催し物が計画されています。設備のよい大講堂で開催されますので、ぜひとも参加してください。また、日蓮聖人に関する書籍や写真も、館内で販売されています。

大曼荼羅本尊に勸請された諸尊は、木像によって表現され、礼拝されます。

大曼荼羅本尊に勸請された諸尊は、木像によって表現され、礼拝されます。

大曼荼羅本尊に勸請された諸尊は、木像によって表現され、礼拝されます。

立教開宗750年記念

大日蓮展

2003年1月15日(水)~2月23日(日)

開館時間=午前9時30分~午後5時(入館は閉館の30分前まで) 休館日=毎週月曜日

東京国立博物館[上野]

お問い合わせ=03-5777-8600 (ハローダイヤル)

ホームページ=<http://sankei.co.jp/event/index.html>

主催=東京国立博物館、日蓮聖人門下連合会、産経新聞社
後援=文化庁、フジテレビジョン、ニッポン放送、サンケイリビング新聞社

●観覧料
一般1,300円 高校・大学生900円 小・中学生400円
*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

今こそ
伝えたいものがある。

Nichiren
Art and Belief

入場チケットは
JT B各支店
JT Bトラブランドで
好評発売中!

ホームページ=<http://www.jtb.co.jp>

祝大日蓮展 平成十五年癸未



日蓮聖人門下連合会

(平成十五年一月現在)

日蓮宗宗務院

管 長 藤井日光
宗務総長 岩間湛正
宗務役員一同

〒146-8544 東京都大田区池上一-132-1-15
電話 〇三(三七五)七-八一
FAX 〇三(三七五)七-一八六

法華宗(本門流)宗務院

管 長 有原日龍
宗務総長 渡辺俊岳
財務部長 佐藤義賢
教学部長 佐々木明乗
教化部長 高村法顕
庶務部長 有田秀達

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二-19-1-1
電話 〇三(五六)四-三〇五五代
FAX 〇三(五六)四-三〇五六

顕本法華宗宗務院

管 長 中山日暁
宗務総長 中村通義
宗務次長 渡辺昭夫
社会部長 大塚正純
庶務部長 島田幸晴
財務部長 藤崎行学

教務部長 大森俊栄
布教部長 早川義正
主 事 津村乗信
主 事 多門顕正
主 事 飯沢道安
主 事 小松正学
主 事 補 前田成明

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九二)七-七七一
FAX 〇七五(七九二)七-二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長 鈴木日艸
宗務総長 土屋善敬
総務部長 佐古弘文
教学部長 門谷東生
財務部長 八木恵岳
教化部長 佐古大弦
宗務参事 大島崇皞

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨五-135-1-6
電話 〇三(三九一)七-二九〇
FAX 〇三(三九一)七-二九〇

本門佛立宗宗務本庁

講 有野崎日丞
講 榎本日裔
宗務総長 高尾日音
宗務副総長 佐藤日鳳
宗務副総長 藤本博造
宗務本庁役員一同

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る東整町一-10番地
電話 〇七五(四六一)一-一六六代
FAX 〇七五(四六一)五-五九九

日蓮本宗宗務院

管 長 嘉儀日有
宗務総長 野間正明
総務部長 長崎秀要
教学部長 岩崎広義
財務部長 原光明

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七二)三三三九〇
FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管 長 上川日乾
宗務総長 斎藤隆彦
総務部長 上田浩岳
教学部長 辻本寛孝
財務部長 堀智泰
社会部長 木村完祥
主 事 本多信正
主 事 足立真正

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五上七紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四二)五七六二
FAX 〇七五(四四二)五七六六

本門法華宗宗務院

管 長 杉本日慈
宗務総長 高邊信幸
宗務部長 信隆日系
財務部長 増田隆雄
総務部長 藤井宏長
庶務部長 土畑信教
教化部長 音羽隆全
門連常任理事 山下通雄

〒602-8418 京都市上京区寺之内大通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五二)三五二七
FAX 〇七五(四五二)三五九七

宗教法人 国柱会

賽 主 田中暉丘
理事長 古知毅彦
門連常任理事 大橋邦正
門連理事 石見良教

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六-1-19-1-18
電話 〇三(三六五)七-二二一代
FAX 〇三(三六五)九-九八〇
<http://www.kokuchukai.or.jp>

京都日蓮聖人門下連合会

会 長 山田一光
副会長 中山日暁
理事長 杉若惠隆
副理事長 大川定信

京門連事務局
〒606-8376 京都府京都市左京区二条通川端東入
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
電話 〇七五(七六二)二四一一
FAX 〇七五(七五二)九三三八

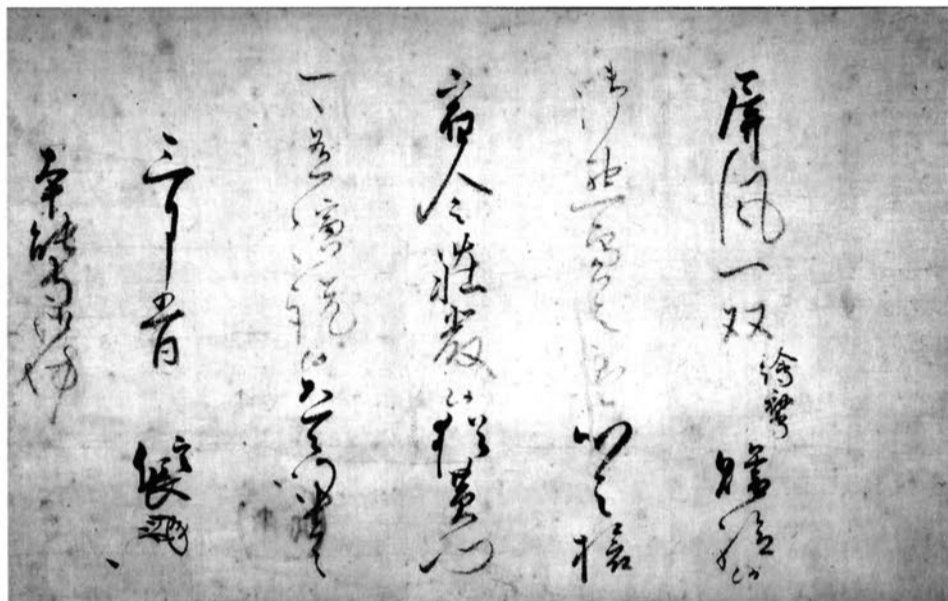
日本山妙法寺大僧伽

主 座 塙行幸
長 老 石山定光
長 老 吉田行典
長 老 酒迎天信
長 老 今井行康
長 老 二宮和嘉

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812 東京都稲城市矢野口三三七七-一番地
電話 〇四二(三七八)三三九五
FAX 〇四二(三七九)〇七四四

今こそ伝えたいものがある。

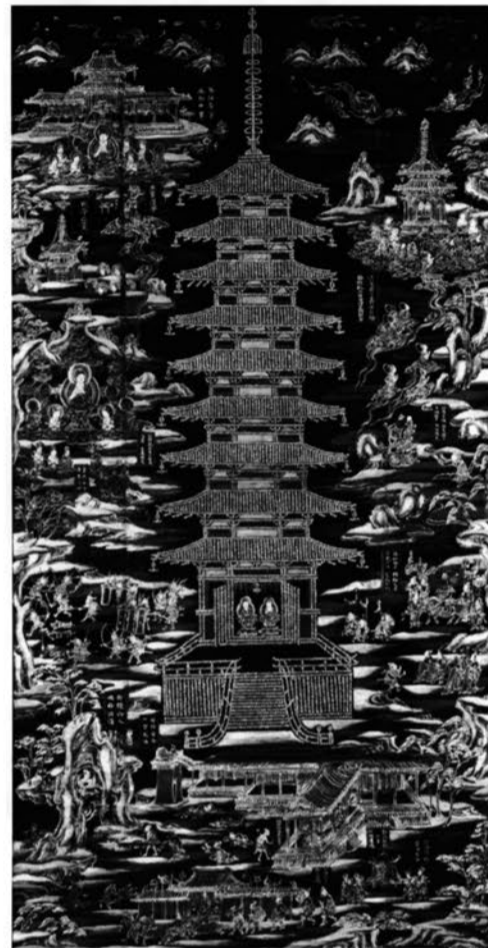
Nichiren Art and Belief



織田信長屏風風札状 (桃山時代) 京都・本能寺 (25.9×40.6)



釈迦如来立像 (鎌倉時代、文永3年、1266)
山梨・本邊寺 (総高 約160 像高97.8 最大幅79.0 最大奥63.8)



法華經宝塔曼荼羅圖 (鎌倉時代) 京都・立本寺 (奈良博寄託) (各110.5×58.5)



釈迦如来像 (英一蝶筆) (江戸時代) 東京・承教寺 (103.2×56.5)



立正安國論 (本阿弥光悦筆) (江戸時代) 京都・妙蓮寺 (39.1×351.4)

平成15年1月15日(水)→2月23日(日)
於 東京国立博物館 [上野公園]
開館時間=午前9時30分~午後5時 (入館は閉館の30分前まで) 休館日=毎週月曜日

『大日蓮展』出展リスト

日蓮聖人とその門弟

a=国宝、◎=重要文化財、○=重要美術品

Table with columns: 指定, 名称, 員数, 作者・伝来など, 時代, 世紀, 地域, 所蔵者, 法量. Lists various Buddhist artifacts and documents related to Nichiren Buddhism.

法華経の美術

Table with columns: 指定, 名称, 員数, 作者・伝来など, 時代, 世紀, 地域, 所蔵者, 法量. Lists various Buddhist artworks related to the Lotus Sutra.

外護者と信者

Table with columns: 指定, 名称, 員数, 作者・伝来など, 時代, 世紀, 地域, 所蔵者, 法量. Contains items like 桔梗折墨紋散蒔絵調度, 加藤清正像, 織田信長屏風礼状, etc.

法華文化の精粹

Table with columns: 指定, 名称, 員数, 作者・伝来など, 時代, 世紀, 地域, 所蔵者, 法量. Contains items like 銅孔雀文馨, 獅子牡丹造腰刀, 立正安国論, etc.

立教開宗750年記念

Nichiren Art and Belief

主催 日蓮聖人門下連合会・東京国立博物館・産経新聞社
 後援 文化庁・フジテレビジョン・ニッポン放送・サンケイリビング新聞社
 協力 日本通運
 ここに掲載した写真はリストにゴシック体にて表示してあります。

大日蓮展

問い合わせ= 03-5777-8600 (ハローダイヤル)
 ホームページ= <http://www.sankei.co.jp/event/index.html>



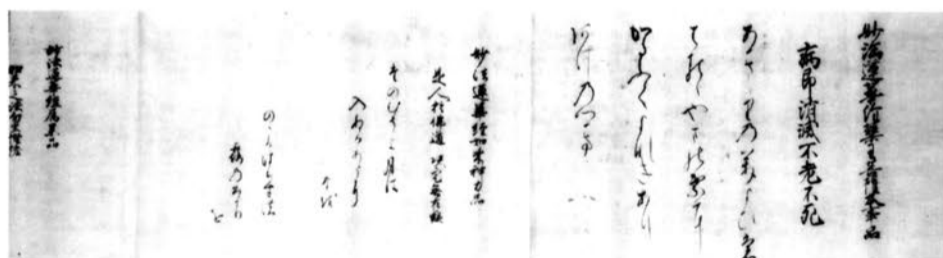
曼荼羅本尊 (日蓮筆) (鎌倉時代、弘安3年、1280) 神奈川・妙本寺 (158.5×101.8)



日蓮上人像 (狩野元信筆) (室町時代) 京都・本隆寺



日蓮聖人像 (鎌倉時代) 静岡・妙法華寺 (95.5×55.0)



法華經要文和歌懐紙1巻 (光厳天皇筆) 京都・妙満寺 (27.3×889.0)



一字宝塔法華經1巻 (平安時代) 京都・本満寺 (28.5×2398.0)



法華經曼荼羅 (鎌倉時代) 静岡・本興寺 (各180.0×86.0)



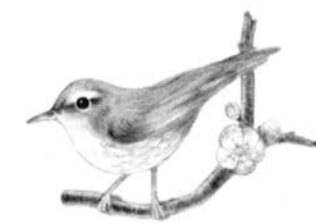


祝 大日蓮展

平成十五年癸未

(平成15年1月現在)

<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇 電話 〇二五六(三三三)〇〇〇八</p> <p>黄 首 鈴木 日艸 執 事 長 真 保 行 宣 執 事 鈴 木 頭 正 執 事 栗 田 孝 之 執 事 高 橋 俊 二</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九二)七二七一 FAX 〇七五(七九二)七二六七</p> <p>黄 総 務 首 大 中 山 日 暁 執 事 小 山 川 定 信 執 事 林 松 本 正 晃 道 執 事 中 村 孝 瑞 学 執 事 森 英 孝 司 執 事 湯 原 正 純 執 事 補 原 正 純</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 8576 東京都大田区池上一―一―一 電話 〇三(三七五)二二三三 FAX 〇三(三七五)三三三〇</p> <p>黄 首 酒 井 日 慈 執 事 長 早 水 日 秀 役 職 員 一 同</p>	<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409 2593 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(二二)一〇一一 FAX 〇五五六(二二)一〇九四</p> <p>法 主 藤 井 日 光 総 務 井 上 瑞 雄</p>
<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒606 8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇五一 電話 〇七五(四六三)四六二〇代 FAX 〇七五(四六三)四六五一</p> <p>住 二 十 三 世 職 野 崎 日 丞 執 事 長 佐 々 木 日 調 事 務 局 長 伊 藤 隆 之</p>	<p>日蓮本宗本山 要法寺</p> <p>〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八 電話 〇七五(七七二)三三九〇 FAX 〇七五(七七二)五九一四</p> <p>黄 首 嘉 儀 日 有 大 学 頭 丹 治 日 遠 執 事 長 野 間 正 明 執 事 岩 崎 廣 義 執 事 原 光 明</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五二)三五二七 FAX 〇七五(四五二)三五九七</p> <p>黄 首 杉 本 日 慈 執 事 長 飯 田 信 栄 役 職 員 一 同</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 8447 京都市上京区智慧院通り五辻上ル紋屋町 電話 〇七五(四四二)五七六二 FAX 〇七五(四四二)五七六六</p> <p>黄 首 上 川 日 乾 執 事 長 矢 放 眞 文 執 事 本 多 信 正 執 事 足 立 眞 正 執 事 記 笹 木 研 吾 書 記 永 岡 悠 希</p>
<p>日興上人御廟所 日蓮宗大本山 富士山重須本門寺</p> <p>〒418 0112 静岡県富士宮市北山四九六五 電話 〇五四四(五八)一〇〇四 FAX 〇五四四(五九)〇三〇三</p> <p>黄 首 本 間 日 諄 参 与 井 出 教 道 参 与 坪 井 親 雄 参 与 井 野 上 正 文 執 事 長 土 橋 興 照</p>	<p>鎌倉開教七百五十年霊地 日蓮宗本山 比企谷 妙本寺</p> <p>〒248 0007 鎌倉市大町一―一―一五一一 電話 〇四六七(二三)〇七七七 FAX 〇四六七(二五)六九六七</p> <p>黄 首 加 藤 日 暉 執 事 長 大 埜 稔 申 執 事 立 野 正 泰 山 務 役 職 員 一 同</p>	<p>日蓮宗大本山 妙顯寺</p> <p>〒602 0005 京都市上京区寺ノ内通堀川東入 電話 〇七五(四一四)〇八〇八 FAX 〇七五(四一四)〇八四八</p> <p>黄 首 山 田 一 光 執 事 長 原 光 司</p>	<p>立教開宗之霊地 出家得度 日蓮宗大本山 清澄寺</p> <p>〒209 5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄 電話 〇四七〇(九四)〇五二五 FAX 〇四七〇(九四)〇五二七</p> <p>別 当 奥 邨 日 鳳 執 事 長 東 孝 信 執 事 宮 崎 雅 宣 執 事 戸 田 教 隨</p>
<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六 電話 〇七五(七七二)〇五六二 FAX 〇七五(七七二)一〇〇四</p> <p>黄 首 永 田 惠 遠 参 与 山 田 智 清 執 事 同 安 井 信 行 執 事 同 藤 井 照 源 執 事 同 二 之 部 知 孝 同 川 合 陽 雄</p>	<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>〒166 0013 東京都杉並区堀之内三一四八―八 電話 〇三(三三三)三三三三 FAX 〇三(三三三)三三三三</p> <p>山 主 駒 野 日 法</p>	<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272 0813 千葉県市川市中山二―一―一 電話 〇四七(三三三)三三三三 FAX 〇四七(三三三)一七九六</p> <p>黄 首 廣 野 日 意 参 与 同 渡 辺 眞 康 参 与 同 田 代 智 清 参 与 同 喜 多 村 教 敬 同 渡 辺 行 俊</p>	



門連時報

京都日蓮聖人門下青年会

七五〇慶讃と結成三十周年式典

京都日蓮聖人門下青年会（藤井照源会長・日蓮宗）は平成十四年十二月十七日結成三十周年を迎え、立教開宗七百五十年慶讃法要と共に、記念式典を京都全日空ホテルで開催、各宗各派の会員・OB・僧侶、檀信徒百名が参加した。

第一部立教開宗七百五十年慶讃法要では、藤井幹事長を導師に、副導師に実行委員の二之部知孝師（日蓮宗）・阿南光節師（本門法華宗）があたり報恩感謝の誠を捧げた。

第二部講演では、立正大学名誉教授、中尾亮先生が「日蓮聖人の実像と虚像」と題し、註画賛のスライドを用いて講演、門下一同参加者は七五〇を通じ更なる聖人像を勉強した。

第三部三十周年式典に入り、まず藤井照源実行委員長（日蓮宗）が挨拶、「結成に到る迄の先輩各聖に感謝し、三十年の歴史と伝統をしっかりと認識し、現状に即応したビジョンをもって活動し、その心を次の世代へ伝えて行きたい。三十周年の記念事業が無事完遂出来たのも、すべての皆様方の物心両面にわたるご協力があればこそで、この気持ちを大切に、今後も門青隆昌のために頑張っていく」と述べた。

来賓祝辞では、京都日蓮聖人門下連合会会長・法華宗本門流大本山本能寺貫首岡本日巨現下、日蓮宗京都八本山会本・本山頂妙寺貫首永田恵遠現下、日蓮聖人門下連合会理事長（渡邊清明・日蓮宗）名代・日蓮宗務院教務部長及川周介師、京都日蓮聖人門下連合会理事長・法華宗本門流大本山本能寺執事長桃井晋城

結成当時のOB各聖をはじめ参加者は、懐かしい思い出を語りつつ、三十年の歴史を思い話はずんだ。

特に歴代幹事長・OBが壇上に上がり、思い出しレトリックを行った時は、それぞれにその時代の出来事をトークし、歴史の重みを感じる一時であった。やはり、出発時の苦しみは大変なものであると実感した。

祝宴には、常日頃頭本法華宗総本山妙満寺の境内にて練習をし、演奏活動を行っている楽団「バルウインズ」が演奏し花を添えた。

最後には、現役会員が壇上に上がり、真枝真光副幹事長（法華宗真門流）が謝辞を述べ、歴代幹事長代表として、上田日瑞現下（本山立本寺貫首・日蓮宗）の一本締めで式典を閉会した。参加者一同は、門下の健

全門連京都理事会・懇話会

法華宗（本門流）大本山本能寺で開催

平成十四年十一月二十七日（水）、本日巨貫首に於いて「全門連京都法華宗（本門流）大本山本能寺（岡

山貫首をはじめ門連理事ら五十名が参加した。

午前十一時より「全門連常任理事会」を開催。昼食後、午後一時より岡本日巨現下御導師のもと法味を言上。本堂前において記念撮影の後、午後二時より会議室にて同じく岡本日巨現下による「本能寺の沿革」を拝聴した。

資料として本能寺に所蔵される宝物の図録が配布され、開山上人以来連綿と受け継がれる本能寺の歴史や、殊に世によく知られるところの「本能寺の変」等、詳細に亘る説明がなされた。

引き続き、午後三時より「理事会・懇話会」が開催された。各自の自己紹介の後、渡邊清明全門連理事長を座長に議事を進行。まず全門連上半期事業報告。続いて京都門下連合会の活動報告。大阪日蓮門下懇話会の行事並びに活動報告があった。そしてこの門連の七五〇事業である「大日蓮展」について、事務局より出展リストの最終説明や、ポスター、チラシ



全国日蓮聖人門下連合会京都理事会（平成14年11月27日 於：大本山本能寺）

開を讀み、これからの前途を誓い合った。

京都日蓮聖人門下青年会結成三十周年にあたり実行委員会を作り、記念事業を企画立案した。

実行委員会

実行委員長―藤井照源（日蓮宗）、実行副委員長―嘉儀吉裕（日蓮本宗）、会計―奥山文章（日蓮宗）、実行委員―梅本光祥（日蓮宗）、阿南光節（本門法華宗）、二之部知孝（日蓮宗）、山本見道（頭本法華宗）、有田秀達（法華宗本門流）、杉若恵亮（日蓮宗）、事務局―川合陽雄

京門連立教開宗七五〇年記念 慶祝行事

京都日蓮聖人門下連合会は、立教開宗七五〇年正当を記念して、「開宗会・夏季大学・御会式」等の例年の業務をすべて休止し、記念法要「梵音聲・佛陀のみこえり、日本仏教の音・法華の響き伝承コンサート」に一本化して、全力を傾注することになった。

会場には当番事務局の本能寺に有縁の京都造形大学（京都市左京区）にある京都芸術劇場「春秋座」を借りることができた。ここは歌舞伎の市川猿之助丈や京舞の井上八千代氏らが顧問・客員教授となっており、伝統芸能の講義や公演も行われる、花道のある和風の舞台である。定員約九百名。

十四年十一月二十三日（土・祝）午後一時半開場、二時開演。仏教伝来当時を偲ばせる伎楽の行列に始まり、声明・繰り弁・和太鼓・舞楽・和讃・題目踊り・万灯練り供養から現代音楽まで、途中一切

シなどの広報促進のお願い。一月十四日に予定されているレセプションの案内などがなされた。会議終了後、本能寺会館に席を移し懇話会が開かれた。この「大日蓮展」の成功に向け門下一同が異体同心の祖訓を体し邁進する決意をあらたにし、会員相互の親睦を深めつつ和やかなひとときを過ごした。

記念事業
①京都日蓮聖人門下青年会三十周年史の編纂、②京都十六本山報恩唱題行脚・比叡山定光院唱題行脚、③門青お題目旗作成2本、④京都日蓮聖人門下青年会シンボルマーク作成、⑤メモリアルデー（十二月十七日）の式典「750法要・講演・祝賀会」を決定、その他、年間活動の充実、規約の改正、新会員の勧募、事務局便りの発行等、一致団結、異体同心で無事円成した。

（藤井照源）



「撃鼓唱題」舞台上に全員集り、フィナーレを迎える。

詳しくは...

(株)日蓮宗新聞社

〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3
TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028
nichiren@t3.rim.or.jp
http://www.t3.rim.or.jp/~nichiren/
(業務時間 午前9時30分～午後5時)

日蓮宗新聞社のお店

〒146-0082 東京都大田区池上4-18-1
TEL&FAX.03-3755-6462
(業務時間 午前10時～午後4時)
※いずれも土・日・祝・祭日休み

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔...

宗門唯一の 日蓮宗新聞

伝道機関紙

毎月1日・10日・20日

年間購読料3,600円(送料込)

教誌

正法

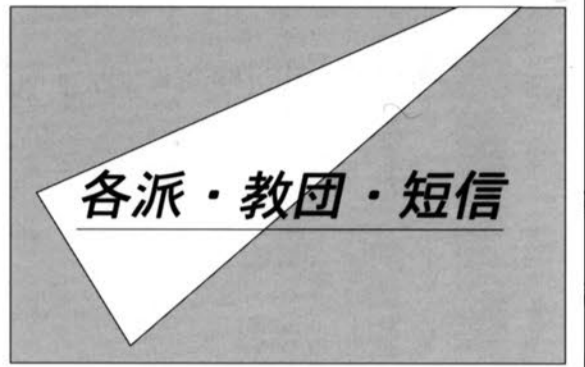
一冊350円(送料別)

年間購読料1,700円(送料込)

○年4回発行

お正月(1月号)/春季彼岸(3月号)

お盆(7月号)/お彼岸・お会式(9月号)



京都門連

7月23日、頂妙寺前貫首、土屋学優氏下ご遷化。10月28日、頂妙寺にて本葬。

9月3日、門下青年会「十六本山報恩行脚」。立本寺から本隆寺まで。

10月4日、「七五〇実行委員会」『梵音聲』打ち合わせ。21日、青年会「結成30周年七五〇報恩行脚」京都市左京区修学院から比叡山定光院まで。

11月22日、造形大学「春秋座」において「梵音聲」リハーサル。23日、造形大学「春秋座」において「門連七五〇法要「梵音聲」開催。27日、「理事会・懇親会」。

12月17日、青年会、全日空ホテルにて「門青結成30周年記念講演・祝賀会」。講師：中尾英文氏、講題：『日蓮聖人の実像と虚像』。12月19日、「梵音聲」スタッフ慰労会。20日、「本山主伴会」。

1月、「理事会・懇親会」。2月16日、「総会・宗祖降誕会」。(谷口真也)

10月23日、千葉市浜野の本行寺において「東部僧員講習会」が開催された。本宗では「正しい本尊をおまつりしよう」を立教開宗七五〇の布教の中心テーマに活動している。今回は、本宗特命布教師を講師に、「本尊の意義を易しく伝える」ことを主眼に、法話の実例をもとに講習が行われた。

10月29日、京都の総本山妙満寺において「西部僧員講習会」が「東部」と同内容にて開催された。

11月29日、12月5日、宗務院主催により立教開宗七五〇の記念事業の締めくくりに意義を含め、中国研修旅行が開催された。妙法蓮華経の訳者でもある鳩摩羅什の御廟所のある西安の草堂寺を参拝した他、空路雲南省に飛び、チベットの影響の強い昆明・麗江の仏教、少数民族の文化に触れた。

本門法華宗

大本山妙蓮寺から「大日蓮展」に伏見天皇御宸翰(重文)・長谷川等伯の障壁画松栞の図(重文)・本阿弥光悦写筆の「立正安国論」・渡邊浄慶妙慶夫妻図(京都市指定文化財)の四宝物が出品される。

大本山妙蓮寺に故斎野樸漢氏(日展会友農鳥社創立会員)筆の遺作「日蓮大聖人御一代記絵巻」が奉納された。昨9月の恒例「秋の寺宝展」にあわせて公開展示された。

本門法華宗学院では第百四回教学講習会が11月25日・26日に大本山妙蓮寺卯木講堂にて開催された。

大本山妙蓮寺年中行事(3月以後)3月春分の日春季彼岸会・4月12日春季大法要・5月12日伊豆法難会・8月6日入盆辰辰法要・8月16日孟蘭盆施餓鬼会・9月12日忠慶会・龍口法難会・9月秋分の日秋季彼岸会・10月12日万燈会・連夜法要・13日宗祖お盆会・11月12日御開山会・12月12日成道会・12月31日歳晩会・除夜の鐘毎月12日本山婦人会定例法要毎月12日妙蓮寺境内にて楽市楽座(フリーマーケット)開催。

1月24日、本山有清寺に於いて、宗内全信徒が一年のお初を御宝前にお納めする本山初灯明料の奉納式が執行された。

1月24日、本山有清寺に於いて、宗内全信徒が一年のお初を御宝前にお納めする本山初灯明料の奉納式が執行された。

11月24日、本山有清寺に於いて、宗内全信徒が一年のお初を御宝前にお納めする本山初灯明料の奉納式が執行された。

11月24日、本山有清寺に於いて、宗内全信徒が一年のお初を御宝前にお納めする本山初灯明料の奉納式が執行された。

11月24日、本山有清寺に於いて、宗内全信徒が一年のお初を御宝前にお納めする本山初灯明料の奉納式が執行された。

本門佛立宗

平成15年元旦、御講有日。上人が本山有清寺に於いて、「本年からは、平成18年に迎える佛立開講一五〇年の記念御奉公が始まります。御講の改良を目指しています。妙法五字で苦悩する社会に光明を与えよ」とのお力強い「年頭のことば」を述べられた。

1月12日、本山有清寺に於いて、平成8年から七周年にわたった、立教開宗七五〇年報恩御奉公を締めくくる、結実法要が厳修された。御講有上人より、八万二千六百七十三人の教化成就と昨年の総修法要の参詣者数四万四千七百三十六人の報告が御宝前になされた。

1月12日の結実法要では、同時に御講有上人より平成18年に迎える佛立開講一五〇年の奉賛御奉公の始動を内外に告げる「論告」が発せられた。

1月24日、本山有清寺に於いて、宗内全信徒が一年のお初を御宝前にお納めする本山初灯明料の奉納式が執行された。

1月24日、本山有清寺に於いて、宗内全信徒が一年のお初を御宝前にお納めする本山初灯明料の奉納式が執行された。

1月24日、本山有清寺に於いて、宗内全信徒が一年のお初を御宝前にお納めする本山初灯明料の奉納式が執行された。

1月24日、本山有清寺に於いて、宗内全信徒が一年のお初を御宝前にお納めする本山初灯明料の奉納式が執行された。

1月24日、本山有清寺に於いて、宗内全信徒が一年のお初を御宝前にお納めする本山初灯明料の奉納式が執行された。

1月24日、本山有清寺に於いて、宗内全信徒が一年のお初を御宝前にお納めする本山初灯明料の奉納式が執行された。

日蓮宗

日蓮宗宗務院主催の第三十二回宗門先師追悼法要が11月21日、東京池上本門寺本殿で営まれ、百二十六師に回向が捧げられた。法要は午前十時から藤井日光管長親下(身延山久遠寺法主)を導師、井村大祐宗会議長、井出存祐審査会長を副導師に、全国三十八ヶ寺の八十九人の遺族遺弟ら渡邊宗務院総長、内局各部部長ら約四百四十人が参列して営まれた。

「日蓮聖人その人へ」の題で全国、講演行脚(立教開宗七五〇年慶讃会主催)していた作家・立松和平氏の最終六回目の講演会が10月28日、東京大崎のゆうほうとで開かれた。立松氏は法華経に説かれてくる忍辱の精神を、法華経成立時の動乱する時代背景から「新しい思想」と説明、

ひるがえって現代は物質は豊かになっているが、思想は豊かになっていないとし、「新しい法華経のような思想を作る力がない以上は、日蓮聖人が蘇らせた法華経を読まなければならない」と訴えた。集まった約五百人の聴衆は、立松氏のとつとつとした語りを耳を傾けていた。

平成14年度の第二回中央檀信徒研修道場(主催：宗務院伝道部)が、

10月26日から28日まで、山梨県身延町の檀信徒研修道場で開かれた。今回は全国から、三十九歳から七十八歳までの十九人(うち女性は八人)が参加した。三日間の研修を通して参加者は、法華経講義や遺文講義、唱題行、法座などを行い、それぞれが地域の檀信徒の先達となるよう、心身の修練に努めた。(金子和正)

10月26日から28日まで、山梨県身延町の檀信徒研修道場で開かれた。今回は全国から、三十九歳から七十八歳までの十九人(うち女性は八人)が参加した。三日間の研修を通して参加者は、法華経講義や遺文講義、唱題行、法座などを行い、それぞれが地域の檀信徒の先達となるよう、心身の修練に努めた。(金子和正)

Table with columns: 年日、氏名、役職、門連役職、就任、退任. Lists members of the organization.

日蓮聖人門下連合会. Includes purpose, activities, and member list.